

(案)

静岡県ファルマバレープロジェクト第5次戦略計画



令和8年3月

静岡県

# 目次

1 策定の趣旨	1
2 基本理念	4
3 基本方向	5
4 プロジェクト推進に向けた戦略	8
戦略1 “ものづくり” ～インパクトある製品づくりを強化する～	8
戦略2 “ひとづくり” ～地域ぐるみで若い力を育てる～	12
戦略3 “まちづくり” ～豊かで活力ある地域をつくる～	15
戦略4 “国内・海外展開” ～プロジェクトの成果を国内外に発信する～	18
5 計画の進捗評価	21
参考1 戦略ごとの所管部署	22
参考2 ファルマバレープロジェクト戦略計画検討委員会委員	23
参考3 ファルマバレープロジェクトのあゆみ	24
参考4 ファルマバレープロジェクト戦略計画の取組・成果	25

# 1 策定の趣旨

ファルマバレープロジェクトは、平成14年の静岡がんセンター開設を機に、「世界一の健康長寿県の形成」を基本理念としてスタートしました。

これまで実施してきたファルマバレープロジェクトの第1次～4次戦略の取組等によって、静岡がんセンターは日本3大がん拠点の一つにまで育ち、患者に先端医療を提供するとともに、我が国では例を見ない患者・家族支援体制を築き上げてきました。また、静岡県医療健康産業研究開発センター（愛称：ファルマバレーセンター）を核として、地域と連携して医療健康産業の振興と集積等を進め、長泉町と周辺市町では医療城下町が形成されつつあります。

20年以上に及ぶプロジェクトの取組の成果や地域の努力の結果、最新の都道府県別健康寿命（厚生労働省発表：令和4年値）では、男女とも本県が全国1位となり、世界最高水準の健康長寿県が形成され、基本理念は実現されました。

静岡県を取り巻く社会経済環境は、急激な変化の中にあります。最新の総務省の公表によれば、本県の日本人転出超過数が2年連続で全国ワースト1位となるなど、人口減少問題は深刻化しています。また、超高齢化の進展により、地域を支える担い手の減少なども、待ったなしの状況にあります。一方で、AIやロボットをはじめとする先端技術の革新は目覚ましく、社会のあり方を変えつつあります。ファルマバレープロジェクトも、これらの大きな変化に、柔軟かつ機動的に対応していく必要があります。

そこで、これまで培った知見に、世界から新しい技術や叢智を集めて、高付加価値な医療健康産業を集積し、住民の暮らしをより豊かにすることを通じて、「幸福度日本一の超高齢社会の理想郷」を目指す第5次戦略計画を策定します。

## <第5次戦略計画の位置付け>

本計画は、静岡県総合計画の政策体系における「未来を創る力」「豊かな暮らし」「県民の安心」の実現に資する分野別計画として位置付けられます。静岡がんセンターとファルマバレーセンターを核として、特に、産業振興、人材育成、地域づくり、国内・海外展開の各分野において施策を展開していきます。

未来を担う若者ととともに、世界に通ずる医療健康産業の更なる発展や、誰もが健康で豊かに暮らせる理想郷づくりを進めることで、地域の活力を高め、域外からの人口流入や流出防止にも繋げていきます。

## <第4次戦略計画までの評価（成果と課題）>

プロジェクト開始から第4次戦略計画に至るまで、主に「ものづくり」「ひとづくり」「まちづくり」「世界展開」の4つの視点から、医療を中心とした高付加価値

値産業が集積し、質の高い医療と癒しを提供する医療城下町の形成を目指して取組を進めてきました。

## (1) 成果

成果指標である「医薬品・医療機器合計生産金額」は、目標の2兆円には至らないものの、8年連続で1兆円を超えるなど、全国トップクラスを維持しています。

また、新型コロナ対応製品の開発や、ゲノム医療の推進、健康長寿・自立支援プロジェクトの本格展開など、現下の社会課題の解決に取り組んだほか、これまで築いた医療城下町を基礎に超高齢社会の理想郷を目指す「医療田園都市構想」の策定や、国の総合特区を活用した山梨県との連携など、新たな取組にも着手しました。

成果指標：医薬品、医療機器合計生産金額：2兆円（R6実績：1兆586億円）		
	数値目標と実績・評価	課題
ものづくり	<p><b>活動指標 事業化・製品化件数：70件（R3～R6実績：58件）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品・医療機器合計生産金額 8年連続 1兆円超</li> <li>・ 地域企業参入54社、医療関連製品開発204件（1～4次） 地域企業の東証への上場</li> <li>・ がんゲノム研究(HOPE)の推進</li> <li>・ 健康長寿・自立支援プロジェクト 「自立のための3歩の住まい」 東京チーム17社、静岡コンサル7社25社</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市場にインパクトを与えるヒット商品の<b>継続的上市</b></li> <li>○ 先端的技術の積極的な取り込み、<b>オープンな環境づくり</b></li> </ul>
ひとづくり	<p><b>活動指標 産業人材の育成人数：215人（R3～R6実績：154人）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療・産業につながる「現場直結型」の育成環境</li> <li>・ 地域を支える産業人材、医療人材育成 約1,300人（1～4次） 医用機器開発の中核人材育成（F-met） 認定看護師を養成 （全国初病院立養成機関、特定行為研修開始）</li> <li>・ 首都圏大学との連携</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療健康産業の原動力となる人材の<b>継続的育成・供給</b></li> <li>○ これからのを担う<b>若年層への魅力発信</b></li> </ul>
まちづくり	<p><b>活動指標 企業立地件数：325件（R3～R6実績：194件）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静岡がんセンターを中核とした医療城下町形成から医療田園都市への展開</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療田園都市構想の<b>地域への浸透、更なる意識醸成</b></li> <li>○ 継続的な<b>行動計画の改良</b></li> <li>○ 医療健康産業の更なる集積のための<b>企業用地の確保</b></li> </ul>
国内・海外展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 超高齢社会に対応する取組等の国内外への普及</li> <li>・ 大使館や海外企業等への情報発信</li> <li>・ 山梨県と県域を超えた連携</li> <li>・ 総合特区評価ライフ・イノベーション分野全国1位</li> <li>・ Newsweek誌「世界の優秀な病院」 静岡がんセンター選出</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 静岡・山梨の相互の<b>強みの更なる活用</b></li> <li>○ <b>広域連携</b>の推進</li> <li>○ プロジェクト発の<b>モデルの情報発信</b></li> </ul>

## 〔医療田園都市構想の進捗状況〕

「まちづくり」のうち、令和5年7月に策定した医療田園都市構想は、12の行動計画を設定した上で、市町をはじめ、地域企業等が参加する勉強会を開催し、地域活性化の手法や先進事例などについて情報発信や意見交換等を行うなど、地域と連携した取組を重ねてきました。

## 医療田園都市構想のイメージ

### - 超高齢社会の理想郷 -



### (12の行動計画と主な取組の状況)

<h4>暮らしの質の向上</h4> <p>暮らしや行政サービス等の情報が、誰でもスマートフォン等で簡単に得られる社会のしくみづくりの支援</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スマート社会</li> <li>2. 暮らしよろず相談</li> <li>3. 先端モビリティ</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市町のDX推進に向けた外部デジタル人材確保支援</li> <li>○ 住民が利用・相談しやすい窓口開設(裾野市、小山町)</li> <li>◎ 暮らしのよろず相談の項目リスト作成</li> <li>○ 自動運転の実証事業実施(沼津市、富士市)、公共ライドシェア+デマンドバス+巡回バスを一括包括委託(小山町)</li> <li>○ 全自連と全国初協定による公共ライドシェアの展開</li> <li>○ エアモビリティ実証フィールド選定(富士市・伊豆市)駿河湾航路での次世代エアモビリティ実証事業を実施</li> </ul>	<h4>都市機能強化・産業活性化</h4> <p>交通ネットワークの強化や地域企業の育成、企業誘致等を通じた医療健康産業の活性化、地域経済の発展</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. ファルマものづくり</li> <li>5. 地域企業支援・育成</li> <li>6. 企業誘致・産業用地の確保</li> <li>7. 高規格道路整備</li> <li>8. 県内・国内・海外展開</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 隣タウンズ(R6.6東証上場)に次ぐ象徴的企業の育成開始</li> <li>◎ ふじのくにオンコパネル薬事申請中</li> <li>◎ ワンストップ窓口拡充による市町の事業用地開発支援 富士山フロント工業団地西側(富士市)等において、新たな産業団地整備事業に着手 県補助金を活用した産業用地適地調査実施(富士宮市、御殿場市、伊豆の国市)</li> <li>◎ 県内に初めて進出する県外企業への助成強化</li> <li>○ 伊豆縦貫自動車道や伊豆湘南道路の期成同盟会へのPVCの参画</li> </ul>
<h4>医療の充実と健康寿命の延伸</h4> <p>医療・福祉・介護の充実による県民が住み慣れた地域で安心して生活できるサービスの充実</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 医療・福祉・介護充実</li> <li>10. フレイル・認知症対策</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 静岡岡コンソーシアム立ち上げ。異業種による意見交換</li> <li>◎ 「自立のための3歩の住まい」が「みらいのたね賞」を受賞</li> <li>○ 認知症治療薬(レキソラ)の投与可能な医療機関の情報提供</li> </ul>	<h4>文化・教育・観光の充実</h4> <p>食文化や産業などの特色ある地域資源を活用した文化活動を促進するとともに、文化の力で地域課題解決に向けた取組を推進</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 東部・伊豆地域文化ネットワーク</li> <li>12. 大学院大学</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 旧ヴァンツ彫刻庭園美術館の民間活力の利活用に向けた一環として地域活性化イベント等モデル事業を実施</li> <li>◎ 地域の教育機関と若年層人材育成等を検討(仮称:ファルマ倶楽部)</li> </ul>

<持続可能な地域社会の実現> ◎ ローカルマネージメント法人の手法検討

⇒ 市町、地域企業等が参加する勉強会(7回開催): 地域活性化の手法、先進事例などを情報発信・意見交換

## (2) 課題

AI・ロボットなど技術の急速な進展や、人口減少の深刻化、社会を支える人材不足などの社会環境の変化等も踏まえると、今後のプロジェクトの更なる発展に向けては、以下の取組を進めることが課題となっています。

- ・市場にインパクトのある商品開発に向け、スタートアップの先端技術等を取り込むなど、ものづくりのオープンな環境づくり
- ・地域企業の人材不足を踏まえた若年層のプロジェクトへの参画
- ・医療田園都市構想の地域への浸透、住民の満足度向上や、域外からの人口流入や流出防止にも資する具体的な成果の発現
- ・医療健康産業の更なる集積に向けた市町との連携による企業用地の確保
- ・静岡・山梨両県の連携強化、プロジェクトの成果の国内外への発信

これらを踏まえ、以下に、第5次戦略計画の基本理念や基本方向、戦略等をまとめました。

## 2 基本理念

プロジェクトの基本理念は、引き続き「世界一の健康長寿県の形成」とします。

この基本理念の維持・向上に向け、プロジェクト開始時から掲げる「ファルマバレー宣言」を共有するとともに、これまで築いてきた医療城下町を基礎に、新たに超高齢社会の理想郷を目指す「医療田園都市構想」の考え方を取り入れ、「地域における医療健康産業の活性化」と「住民への先端的医療の提供」を両輪として施策を推進します。

計画の推進に当たっては、本県が目指す「県民幸福度日本一」の実現に向けて、医療・健康をキーワードに、県民が人生のあらゆる段階で幸せを実感できる地域社会の構築を目指します。

### 《ファルマバレー宣言》

『私たちは、患者・家族の視点に立ち、  
叡智を育み結集し、  
共に病と闘い支えあい、  
健康社会の実現に貢献することを宣言します。』



### 3 基本方向

ファルマバレープロジェクトは、始動期（第1次及び第2次戦略計画期間）、成長期（第3次及び第4次戦略計画期間）を経て、着実に成長を遂げてきました。

第5次戦略計画は、これまでの20年以上にわたる実績を礎に、世界を舞台に大きく飛躍する発展期、「ジャンプ」のステージです。第4次戦略計画の戦略の柱を継承しつつ、新たな視点を取り入れて、スピーディーに施策展開を図ることで更なる飛躍を目指します。

#### (1) 方向性

「ものづくり」「ひとづくり」「まちづくり」「国内・海外展開」の4つの柱を推進し、県民一人ひとりの“いのち”と“くらし”の質の向上（ウェルビーイング）を図り「県民幸福度日本一」に貢献します。

#### (2) テーマ

##### 未来に挑む医療健康産業の推進～健康長寿で豊かな暮らしの理想郷づくり～

- ・地域の企業とスタートアップ、大学、研究機関等が共創して、国内外から次代を担う若者の参画を促し、未来を拓く技術と叡智を集め、世界に誇る医療健康産業クラスターの形成を目指す。
- ・静岡がんセンターを中心とする先端医療の提供や暮らしの質向上等を通じて、誰もが健康で豊かに暮らせる「超高齢社会の理想郷」づくりを進め、これを域外からの人口流入や流出防止に繋げていく。

#### (3) 計画期間

令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）までの5年間

#### (4) 成果指標（全般）

計画最終年度である令和12年度の成果指標を設定します。

指標	第4次戦略目標値	実績値	第5次戦略目標値
医薬品・医療機器 合計生産金額	2兆円	1兆586億円 (R6年)	2兆円 (長期目標) 1兆2千億円 (令和12年)

## (5) 成果指標（戦略別）

成果指標（全般）「医薬品・医療機器合計生産金額」を達成するため、成果指標（戦略別）を設け、プロジェクトの進捗状況を評価していきます。

戦略	指標	第4次戦略 目標値	実績値	第5次戦略 目標値
1	ファルマバレープロジェクトによる事業化件数(累計)	70件 (14件/年)	58件 (14.5件/年)	75件 (15件/年)
2	ファルマバレープロジェクトによる産業人材の育成人数(累計)	215人 (43人/年)	154人 (38.5人/年)	215人 (43人/年)
	ファルマバレープロジェクトの若年層人材育成事業に参画する教育機関数(最終年度)	—	—	3校
3	医療田園都市構想で社会実装化に取り組む事業・システム件数(累計)	—	—	10件 (2件/年)
	医療田園都市構想に取り組む市町数	—	—	15市町
	企業立地件数(県内全域)(累計)	325件 (65件/年)	194件 (48.5件/年)	375件 (75件/年)
4	総合特区の評価 (ライフイノベーション分野)	—	〔全国1位〕 (R6年度)	全国1位を 維持

※実績値のうち、総合特区の評価は令和6年度、その他は令和3～6年度の合計

## (6) 4つの戦略

戦略	主な内容
戦略1 “ものづくり”	～インパクトある製品づくりを強化する～ ・スタートアップと地域企業の共創による事業創造 ・健康長寿・自立支援プロジェクトに関わるものづくり
戦略2 “ひとづくり”	～地域ぐるみで若い力を育てる～ ・医療専門職の育成 ・地域企業の人材確保・育成 ・若年層人材の参画と育成
戦略3 “まちづくり”	～豊かで活力ある地域をつくる～ ・医療田園都市構想の推進 ・医療健康産業の誘致強化
戦略4 “国内・海外展開”	～プロジェクトの成果を国内外に打ち出す～ ・総合特区等を活かした広域連携の強化 ・高齢者ビジネス等の海外展開支援 ・先駆的取組の発信強化

## (7) 新たな視点

### <先端技術を活用したインパクトある製品開発>

国の成長戦略とも連携しつつ、ファルマバレーセンターの拠点機能を強化して、国内外に開かれたオープンな環境のもと、先端技術を持つスタートアップと地域企業との共創を進め、インパクトある医療技術や製品等の研究開発を加速します。

### <地域ぐるみでの若年層人材の確保・育成>

県内外の教育機関や企業等と連携して、世界に通ずる知識や技術を地域で学び、医療健康産業で活躍できる人材を、地域ぐるみで育成する新たな仕組み（ファルマ倶楽部（仮称））を、若年層の意見を取り入れながら推進していきます。

### <暮らしの豊かさと地域の活力の向上>

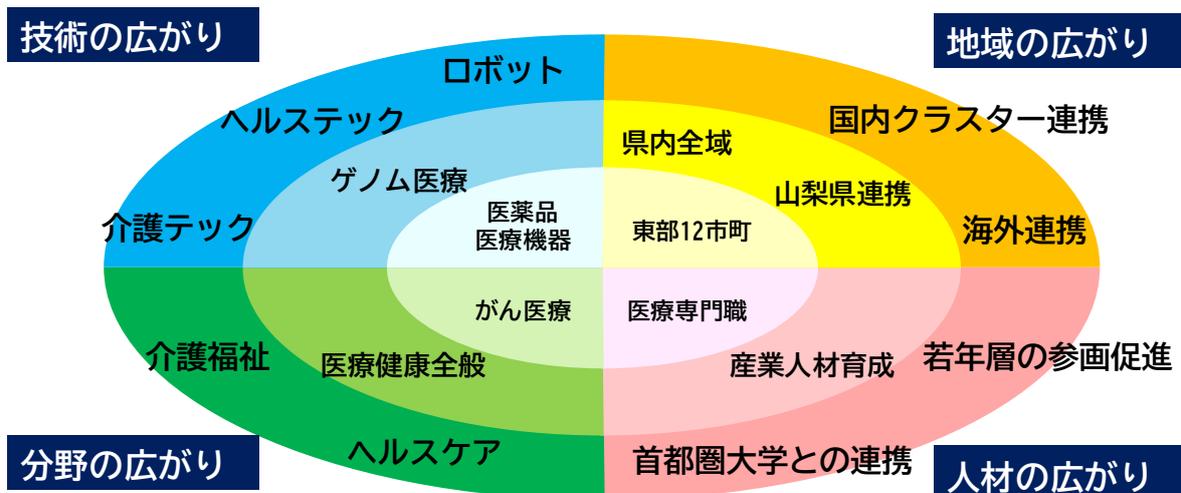
超高齢社会の理想郷の実現に向け、地域の関係者と連携して、デジタルなどの先端技術や地域資源等を活かし、誰もが健康で豊かに暮らせるまちづくりに取り組み、域外からの人口流入や流出防止に繋げていきます。

また、市町と連携して、産業用地の計画的な整備や国内外からの企業誘致を強化し、医療健康産業の更なる活性化を図ります。

### <プロジェクトの成果の国内外への展開>

がんゲノム研究「プロジェクトHOPE」や「自立のための3歩の住まい」をはじめとするプロジェクトの顕著な成果をもとに、超高齢社会に資する「高齢者ビジネス」を国内外に展開していきます。

## ○プロジェクトの広がりイメージ



## 4 プロジェクト推進に向けた戦略

### 戦略1 “ものづくり” ～インパクトある製品づくりを強化する～

#### 【目指す姿】

- ・先端技術を活用し、次々と生み出されるプロジェクト発の製品が医療・介護現場に広く定着することで、医療従事者や患者の負担軽減と医療の質向上に貢献し、全国の医療機関等から高い評価を得ている。
- ・ゲノム情報に基づく患者一人ひとりの体質や病態にあった医療製品や、現場ニーズをもとに開発された介護テック・ヘルステック製品が、超高齢社会の課題解決に貢献している。
- ・こうした取組により、医療健康産業の集積が進み、本県経済の持続的発展を力強く牽引している。

#### 地域企業による事業創造・参入支援の強化

#### ファルマものづくり

地域のものづくり支援

ファルマバレープロジェクト  
主導の提案型の取組

先端技術を活用した  
インパクトある製品開発  
(スタートアップと  
地域企業の連携)



プロジェクト HOPE



自立のための3歩の住まい



#### 【取組方向】

- ・医療介護現場に貢献する製品の継続的な開発に向け、静岡がんセンター、ファルマバレーセンターを中核とし、国内外に開かれたオープンな環境のもと、スタートアップや大手企業との連携等により、地域企業の事業創造や参入への支援を強化する。
- ・超高齢社会の課題解決に向け、健康長寿・自立支援プロジェクトを推進する。
- ・医療・介護従事者から評価されるものづくりの強化に向け、現場のニーズに応える製品開発を促進する。

## 【主な施策】

### 1 スタートアップと地域企業の共創等による事業創造

#### ◎ ファルマバレーセンターを拠点としたスタートアップ等と地域企業との共同開発の推進

ファルマバレーセンターを拠点として、スタートアップと地域企業との連携を促し、国内外の大学や国立遺伝学研究所をはじめとする研究機関等を含むオープンイノベーションにより、インパクトのある製品開発を支援します。

##### 【主な取組】

- ・スタートアップと地域企業のマッチング支援
- ・オープンイノベーションの促進のための展示会等による発信強化
- ・異業種交流会の開催
- ・スタートアップ支援施策の充実（ベンチャーキャピタルと連携した資金調達支援等）
- ・県の取り組む他の次世代産業関連プロジェクトとの連携強化

#### ◎ 集中的伴走支援を通じたプロジェクトを象徴する企業の育成

高い成長ポテンシャルを持つ地域企業への集中的な伴走支援を通じて、プロジェクトを象徴する企業を育成します。

##### 【主な取組】

- ・重点支援企業の選定と集中的伴走支援(技術開発から製品化、販路開拓まで)
- ・専門コーディネーターによる技術指導・経営支援・定期的なフォローアップ
- ・大手企業・研究機関との連携支援・共同研究の促進
- ・金融機関との連携、知財・相談・出願支援

#### ◎ 医療健康分野での第二創業の促進やサプライチェーンの強化

県内大手企業と連携して、医療健康分野での第二創業の取組やサプライチェーンの強化を支援し、医療健康産業の裾野拡大を図ります。

##### 【主な取組】

- ・県内大手企業の技術シーズや医療ニーズとのマッチング
- ・既存産業の技術転用や異業種連携等による医療健康分野への参入促進
- ・県内大手企業と地域企業とのマッチング等によるサプライチェーンの強化

## 2 健康長寿・自立支援プロジェクトに関わるものづくりの推進

### ◎ ゲノム研究の成果等を活用した製品開発の推進

静岡がんセンターのがんゲノム医療「プロジェクト HOPE」等の最先端ゲノム研究の成果や医療データ等を活用し、医療機器等の開発を推進します。

#### 【主な取組】

- ・創薬等の出口を見据えたプロジェクト HOPE 等の最先端ゲノム研究の更なる推進
- ・ゲノムデータベースや医療データの活用による患者一人ひとりの体質や病態にあった医療製品等の開発支援

### ◎ 健康寿命の延伸に資する医薬品等の研究開発の支援

高齢者ニーズに対応したヘルステック・介護テック製品の実証・開発を支援し、健康寿命の延伸に資する医薬品等の研究開発を進めます。

#### 【主な取組】

- ・健康寿命の延伸に資する医薬品等の研究開発を支援
- ・創薬プラットフォームを活用した医薬品等の研究開発
- ・治験ネットワークを活用した臨床試験支援

### ◎ 「自立のための3歩の住まい」に資する製品・サービス等の導出

高齢者の自立を支援し、生活の質の向上を図ることを目的とした超高齢社会の居室整備「自立のための3歩の住まい」について、異業種連携による早期の実装化や、高齢者ニーズに対応した新たな製品・サービス等の導出を図ります。

#### 【主な取組】

- ・人生100年時代の住宅設備コンソーシアムによる「自立のための3歩の住まい」の実装化や未来のケアを支える技術の検討
- ・地域企業を中心とした静岡コンソーシアムによる住宅・建設業界と医療・介護業界等の異業種連携による実装化や機器開発等の促進
- ・高齢者ニーズに対応したヘルステック・介護テック製品の実証・開発支援
- ・介護・福祉機器の開発支援

### 3 ニーズに応える製品開発の促進

#### ◎ 医療従事者と企業のマッチング強化

医師・看護師・薬剤師・工学技術者のニーズを製品開発に結びつける「アイデアボックス」の機能を拡充し、医療従事者と企業のマッチングを強化します。

また、介護現場等のニーズを捉えた在宅医療・介護向けデバイス等の開発を支援し、現場で必要とされる製品の創出を促進します。

さらに、プロジェクトから生まれる製品について県内外の医療機関や卸売業者、大手メーカーなどと連携して、販売促進に努めます。

#### 【主な取組】

- ・介護版アイデアボックスの設置・運用
- ・医療従事者と企業のマッチング機会の提供
- ・ニーズに基づく開発プロジェクトの推進
- ・医療・介護現場でのプロトタイプ評価支援
- ・県内外医療機関での院内展示会の開催
- ・学会併設展示会への出展による医療関係者への製品アピール
- ・卸売業者や大手メーカー等との連携による販路開拓

## 戦略2 “ひとづくり” ～地域ぐるみで若い力を育てる～

### 【目指す姿】

- ・医療健康産業の成長を支える高度産業人材、特に、高校・高等専門学校、大学などで学ぶ若年層がプロジェクトに関わり、その後、数多くの人材がこの地域で活躍し、本県の医療健康産業を支えている。
- ・質の高い医療サービスを提供する医療専門職が育成され、地域医療の質の向上に貢献している。



「医療健康関連企業と知事との意見交換会」  
(2025年2月開催)における意見

- ・人手不足の問題が深刻
- ・理系人材や薬剤師の確保が特に困難
- ・企業としても人材育成に協力

### 若年層人材の育成(仮称：ファルマ倶楽部)

#### 教育機関と地域企業の連携による新たな人材確保の仕組みづくり



教育機関



ファルマ

- ・展示会などを活用した学生の医療ものづくりへの理解促進
- ・ファルマ関連企業でのインターンシップ
- ・教育機関のシーズを基にした共同研究
- ・起業を目指す学生への支援

⇒ 地域に根付く高度人材の育成

### 【取組方向】

- ・医療健康産業の次代を担う人材の育成に向け、県内教育機関等と連携して、若年層のプロジェクトへの参画を促進する。
- ・地域企業の中核人材や高度研究人材の育成に向け、県内大手企業や連携大学等と連携し、技術指導や人材交流等を促進する。
- ・静岡がんセンターを核として、患者・家族の視点に立った質の高い医療専門職の育成を進める。

## 【主な施策】

### 1 若年層人材の参画と育成

#### ◎ 教育機関と連携した若年層人材育成

静岡県立大学をはじめとする県内大学や沼津工業高等専門学校、工業高校等の県内教育機関や遺伝学研究所などの研究機関等と連携し、教育界と産業界等との連動による地域ぐるみで、医療健康分野の若年層人材育成事業（ファルマ倶楽部(仮称)）を、若年層の意見を取り入れながら展開していきます。

##### 【主な取組】

- ・ 県内教育機関と企業等が連携した実践的カリキュラムの開発  
（世界に通ずる技術に触れる企業現場見学会やインターンシップ、医療機器等展示会の開催、医療・介護の未来を見据えた共同研究 等）
- ・ 学生やアカデミア、スタートアップ等による研究会開催などネットワーク構築やコミュニティ形成の支援
- ・ プロジェクトや医療田園都市構想への若者視点での提言機会の創出

#### ◎ 首都圏協定締結大学等との連携強化

首都圏の協定締結大学をはじめとする共同研究や人的交流などの連携を強化し、国内外から研究者、技術者といったプロジェクトを支える高度人材の確保育成や地域への流入を促進します。

##### 【主な取組】

- ・ 首都圏協定締結大学との共同研究
- ・ 学生の地域インターンシップ受入・首都圏大学生の受入促進
- ・ Uターン・Iターン就職の支援
- ・ 外国人研究者の受入支援

### 2 地域企業の人材確保支援

#### ◎ 医療現場体験プログラムの実施

静岡がんセンター等での医療現場体験プログラムを通じて、製薬企業・医療機器企業への理解を促進します。

##### 【主な取組】

- ・ 製薬企業等向け医療現場見学・体験プログラムの実施

#### ◎ 県内教育機関や大手企業等と連携した中核人材の育成

沼津工業高等専門学校が行う富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム(F-met)や医療健康分野への参入を促すセミナーなどを通じて、地域企業の

中核人材の育成を支援します。また、県内大手企業等と連携した技術指導や人材交流を通じて、地域企業のものづくり人材を確保や育成を支援します。

【主な取組】

- ・ F-met の継続実施、参加者拡大に向けた改善（オンライン講義の導入等）など、産業人材育成企画の展開
- ・ F-met 受講修了者のネットワーク構築支援
- ・ 大手企業による地域企業への技術指導・研修の実施
- ・ ケーススタディやグループワークなどによる実践的演習プログラムの充実

### 3 医療専門職の育成

◎ 静岡がんセンターを核とした質の高い育成プログラム

静岡がんセンターの育成プログラムにより、医師・看護師・薬剤師・コメディカルなど、質の高い医療専門職を継続的に供給します。認定看護師教育課程など、高度な専門性を持つ医療人材の育成を推進します。

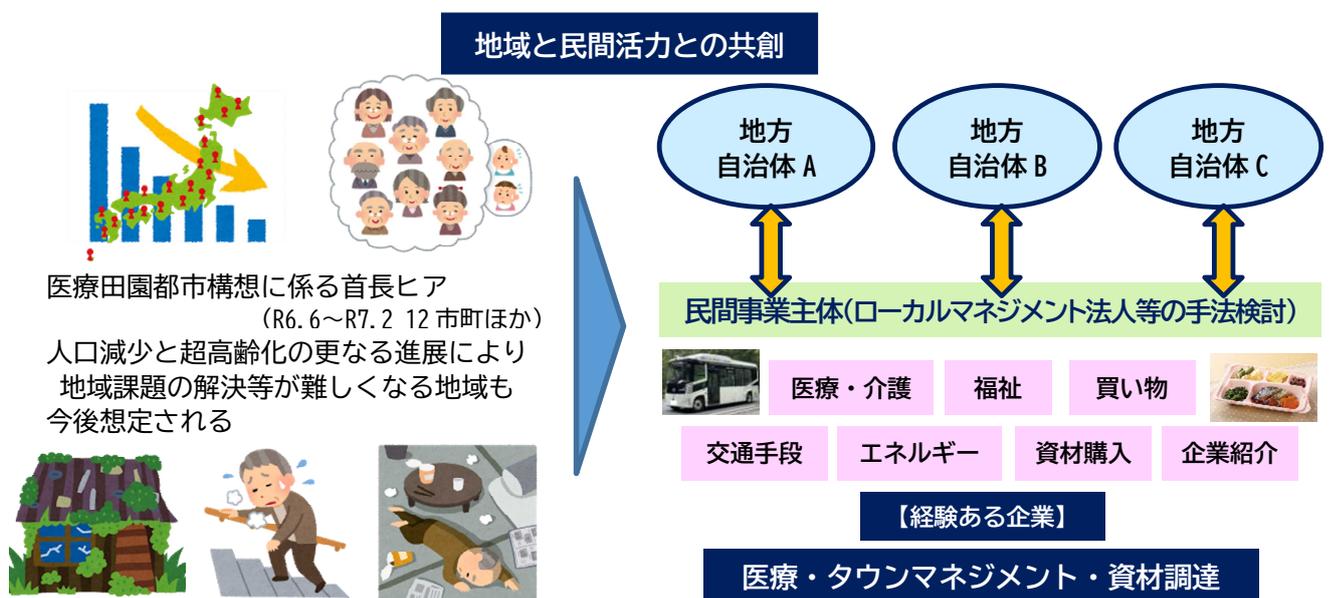
【主な取組】

- ・ 医師、看護師等の確保・育成（認定看護師教育課程の運営・強化ほか）
- ・ コメディカルスタッフの専門性向上研修
- ・ 地域医療機関との連携強化

## 戦略3 “まちづくり” ～豊かで活力ある地域をつくる～

### 【目指す姿】

- ・ 超高齢社会の進展を見据え、デジタル技術の活用等による暮らしの質の向上や、地域資源・文化芸術等を活かした癒しある環境整備等を通じて、誰もが健康で豊かに暮らせるまちづくりが進んでいる。
- ・ 多様な産業分野の企業が医療健康分野に参入するとともに、国内外の企業が進出し、静岡がんセンターを中心とする地域への医療健康産業の集積が一層進んでいる。



### 【取組方向】

- ・ 超高齢社会の理想郷を目指し、市町をはじめ地域の関係者と連携して「医療田園都市構想」を推進する。
- ・ 人口減少の更なる深刻化を見据えた行政サービスの持続可能性の確保に向け、地域と民間活力との共創のあり方を検討する。
- ・ 医療健康産業の集積による地域の豊かさを実現するため、市町と連携して、国内外からの企業誘致を強化する。

## 【主な施策】

### 1 医療田園都市構想の推進

#### ◎ デジタル技術等を活用した暮らしの質の向上

ウーブン・シティなど先進的な取組とも協力しながら、AI等のデジタル技術を活用し、誰でもスマートフォン等で簡単に情報を得られ、サービスが受けられる暮らしやすい社会の仕組みづくりを支援します。

##### 【主な取組】

- ・行政手続のオンライン化などを通じた住民サービスの向上
- ・地域情報プラットフォーム（暮らしのよろず相談）の仕組みづくり支援
- ・デマンド交通の導入や、自動運転・次世代モビリティ等の実証運行の促進

#### ◎ 医療健康産業の活性化と都市機能強化

地域企業の育成・誘致等を通じて、医療健康産業の活性化を図り、まちづくりの経済基盤を強化します。

##### 【主な取組】

- ・地域企業による事業創造の強化
- ・医療健康産業の誘致促進
- ・産業基盤強化等に向けた幹線道路の整備促進と公共交通ネットワークの充実

#### ◎ 医療の充実と健康寿命の延伸

地域医療体制や地域包括ケアシステムとの連携等により、医療・福祉・介護サービスの充実を図ります。

##### 【主な取組】

- ・最先端のがん医療の提供をはじめとする地域医療体制の確保
- ・地域包括ケアシステムの推進
- ・フレイル対策の推進
- ・健康長寿・自立支援プロジェクトの推進
- ・静岡ウェルネスプロジェクト等との連携

#### ◎ 地域資源を活かした魅力的なまちづくり

これまで築いてきた医療城下町を基礎として、暮らしの質向上につながる好事例を創出し、周辺市町に横展開を図ることで、効果を地域全体に広め、域内への人口流入や流出防止に繋げていきます。

食や文化など地域資源のネットワーク化等を通じて個性豊かなまちづくりを進め、住民の地域愛着を醸成します。

子育て環境の充実や女性が働きやすい環境づくり、教育の充実、地域防災力の強化など、地域が抱える課題について、関連施策と連携して対応を進めます。

【主な取組】

- ・ 東部・伊豆地域の文化資源のネットワーク化
- ・ 市町の特徴あるまちづくりへの支援

## 2 地域と民間活力との共創

### ◎ 民間事業者や地域住民との連携手法の検討

超高齢社会における行政サービスの持続可能性の確保に向け、民間のノウハウと資金等を活用した効果的な地域運営に資するローカルマネジメント法人などの手法活用を検討します。また、住民が製品開発や実証実験に参加する仕組みの構築など、住民ニーズを反映した製品・サービスの創出を促進します。

【主な取組】

- ・ 地域の行政サービスの担い手となる民間事業者（ローカルマネジメント法人等）との連携手法の検討
- ・ ユーザーテストなど住民参加型製品実証の導入検討
- ・ 住民アイデアと開発企業とのマッチング

## 3 医療健康産業の誘致強化

### ◎ 県・市町が連携した企業誘致、流出防止

企業立地に関する相談に総合的に対応するワンストップ窓口の充実により、県庁内関係部局や市町、関連機関と連携して、令和7年度から10年間で500ヘクタールの産業団地の確保をするとともに、首都圏等でのトップセールスや全国トップクラスの補助制度により、企業誘致を促進します。

さらに、既存企業の事業拡大や設備投資をサポートし、県外への流出を防止します。

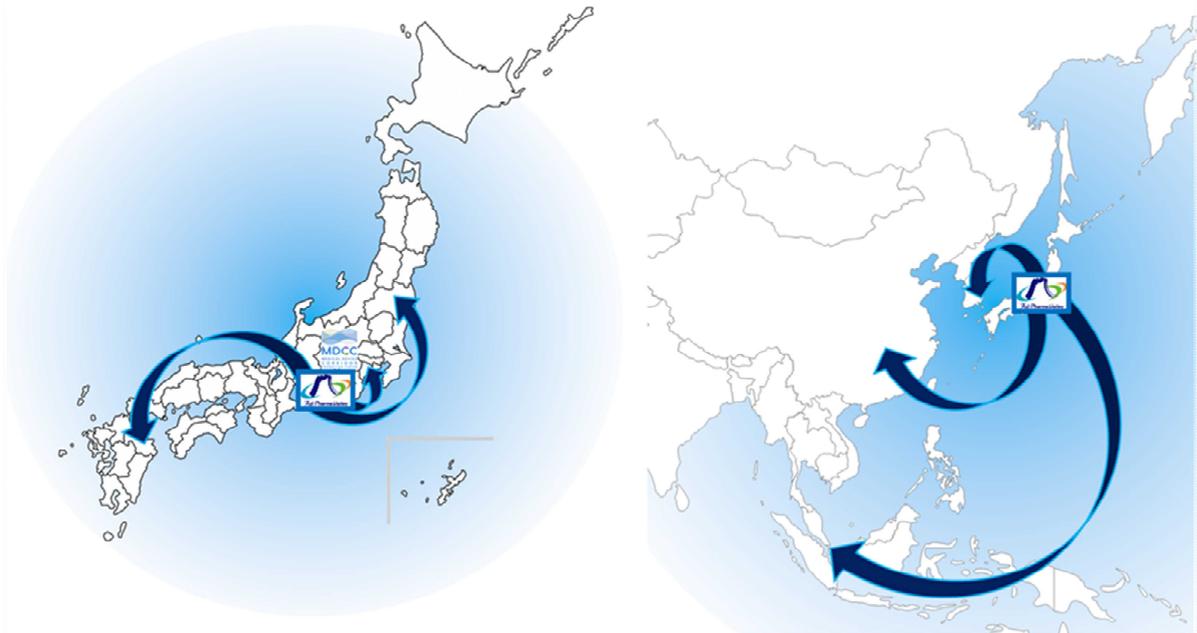
【主な取組】

- ・ 市町と連携した産業用地の整備
- ・ ワンストップ相談窓口の運営
- ・ 用地情報の収集・提供と開発手続の支援
- ・ 立地後のフォローアップ
- ・ 企業訪問による課題把握と支援

## 戦略4 “国内・海外展開” ～プロジェクトの成果を国内外に発信する

### 【目指す姿】

- ・ 県境を越えたサプライチェーンが構築され、ロボット・生成AI等を活用した高度医療機器の共同開発が活発化している。
- ・ 医薬品・医療機器の国産化が進むとともに、輸出産業としての地位を確立し、医療健康産業が本県経済を牽引するリーディング産業となっている。
- ・ 「自立のための3歩の住まい」などの超高齢社会課題解決モデルがアジアをはじめ世界各国に展開され、国際的に高い評価を得ている。
- ・ こうして、プロジェクトから生まれた製品・仕組み・ノウハウが世界に広がり、アジアを牽引し、世界の先進地域と肩を並べる医療健康分野の産業クラスターを目指す取組が進められている。



### 【取組方向】

- ・ 県境を越えた研究開発等の活発化に向け、総合特区制度を活かした山梨県との広域連携等を強化する。
- ・ 医療健康産業の国際的な競争力強化に向け、地域企業の海外展開を支援する。
- ・ プロジェクト発のビジネスモデルの発展や世界に誇れるクラスター形成の実現に向け、国内外との連携や情報発信を強化する。

## 【主な施策】

### 1 総合特区等を活かした広域連携の強化

#### ◎ 総合特区を活かした山梨県との連携強化

ふじのくに先端医療総合特区の区域拡大によるメリットを活かし、静岡・山梨両県の企業連携によるサプライチェーン強化や、ロボット・AI等を活用した高度医療機器の研究開発を推進します。

##### 【主な取組】

- ・静岡・山梨企業のマッチング支援とサプライチェーン構築支援
- ・ロボット・AI活用医療機器の開発支援
- ・共同展示会・商談会の開催

#### ◎ クラスター間の広域連携

全国の産業クラスターとの協働により、中小企業の情報交換や技術交流を積極的に進めます。

##### 【主な取組】

- ・クラスター間の情報交換・技術交流の促進

### 2 高齢者ビジネス等の海外展開支援

#### ◎ 医療・介護福祉機器等の国際展開

高齢者ニーズに対応した製品・サービスの展開、いわゆる「高齢者ビジネス」などについて、製品供給エリアの拡大に向けた支援など、海外進出を目指す製品・企業等を総合的に支援します。医療・介護福祉機器展への海外からの参加を促進するなど、国際的なブランド力を強化します。

##### 【主な取組】

- ・医療・介護福祉機器展への海外関係者の参加促進
- ・「自立のための3歩の住まい」の国際展開

#### ◎ 医療機関・アカデミアとの連携

海外の医療機関・アカデミアとの連携を強化し、共同研究や人材交流を促進します。また、海外市場の情報収集と地域企業への提供、海外展開力向上のための支援を行います。

##### 【主な取組】

- ・海外の研究者・医療機関関係者等との相互交流
- ・国内外への情報発信、連携支援

#### ◎ 品質管理システム等の整備支援

ファルマバレーセンターと薬事コンサルタント等との連携により、地域企業によるQMS体制の整備や世界標準の品質管理システムの導入、認証の取得等に対して助言・指導を行い、世界展開に向けた生産体制の構築を支援します。

##### 【主な取組】

- ・品質管理システムの導入支援
- ・リーディングパートナー等と連携した先進事例の紹介

### 3 プロジェクト発の先駆的取組の発信強化

#### ◎ 国内外への情報発信

静岡がんセンターの患者・家族本位の医療哲学、ファルマバレープロジェクトの産学官金連携の仕組みなど、先駆的取組を国内外に情報発信します。国際会議や学会での発表、ウェブサイトの充実等により、プロジェクトの成果を広く共有し、プレゼンス向上や販路拡大を図ります。

##### 【主な取組】

- ・ウェブサイトや静岡がん会議等の国際会議での情報発信
- ・国内外の視察受入れと情報発信
- ・国際展示会への出展支援
- ・首都圏からの交通アクセスの良さを活かしたプロジェクトの情報発信

## **5 計画の進捗評価**

### **(1) 最終評価とその後の展開への反映**

年度毎に戦略計画検討委員会を開催するほか、計画期間の最終年度（令和12年度）において、評価を行い、第5次戦略計画期間の成果と課題を総括し、その後の展開に反映します。

### **(2) PDCA サイクルの徹底**

成果指標の達成状況を定期的に評価し、施策の見直しを行います。PDCA サイクルを徹底することにより、効果的な政策展開を図ります。

### **(3) 社会情勢の変化への対応**

社会情勢や技術動向の変化には、柔軟かつ機動的に対応します。新たな課題や機会が生じた場合には、計画期間中であっても必要に応じて施策の追加・見直しを行います。

## 参考1 戦略ごとの所管部署

戦略1 “ものづくり”～インパクトある製品づくりを強化する～	
1 スタートアップと地域企業の共創等による事業創造	新産業集積課、産業イノベーション推進課、静岡がんセンター、ファルマバレーセンター
2 健康長寿・自立支援プロジェクトに関わるものづくりの推進	新産業集積課、薬事課、環境衛生科学研究所、静岡がんセンター、ファルマバレーセンター、静岡県立大学
3 ニーズに応える製品開発の促進	新産業集積課、静岡がんセンター、ファルマバレーセンター
戦略2 “ひとづくり”～地域ぐるみで若い力を育てる～	
1 若年層人材の参画と育成	新産業集積課、産業人材課、高校教育課、私学振興課、総合教育課、静岡がんセンター、ファルマバレーセンター、静岡県立大学
2 地域企業の人材確保支援	新産業集積課、静岡がんセンター、ファルマバレーセンター
3 医療専門職の育成	地域医療課、静岡がんセンター
戦略3 “まちづくり”～豊かで活力ある地域をつくる～	
1 医療田園都市構想の推進	新産業集積課、デジタル戦略課、企業立地推進課、建設政策課(未来まちづくり室)、道路企画課、地域交通課、医療政策課、疾病対策課、福祉長寿政策課、健康増進課、健康政策課、文化政策課、地域振興課、静岡がんセンター、ファルマバレーセンター
2 地域と民間活力との共創	新産業集積課、地域振興課、静岡がんセンター、ファルマバレーセンター
3 医療健康産業の誘致強化	新産業集積課、企業立地推進課、静岡がんセンター、ファルマバレーセンター
戦略4 “国内・海外展開”～プロジェクトの成果を国内外に発信する～	
1 総合特区等を活かした広域連携の強化	新産業集積課、静岡がんセンター、ファルマバレーセンター
2 高齢者ビジネス等の海外展開支援	新産業集積課、静岡がんセンター、ファルマバレーセンター
3 プロジェクト発の先駆的取組の発信強化	新産業集積課、疾病対策課、静岡がんセンター、ファルマバレーセンター

## 参考2 ファルマバレープロジェクト戦略計画検討委員会委員

(五十音順、敬称略)

区分	氏名	職名
会長	大坪 檀	公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構 相談役
副会長	大川 澄人	株式会社日本経済研究所 取締役
委員	秋山 欣丈	一般社団法人 静岡県医師会 理事
	今井 康之	静岡県公立大学法人 理事長兼静岡県立大学 学長
	大須賀淑郎	公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構 理事長
	大野ゆう子	国立大学法人 大阪大学 名誉教授
	解良 智弘	テルモ株式会社 MEセンター センター長
	近藤 滋	国立遺伝学研究所 所長
	西島 昭男	株式会社シード 代表取締役会長
	西野 勝明	静岡県立大学 名誉教授
	橋本 正洋	法政大学大学院 教授
	馬瀬 和人	一般財団法人 静岡経済研究所 理事長
	三須 敏郎	公益財団法人 静岡県産業振興財団 副理事長
	盛田 延之	東海部品工業株式会社 代表取締役会長
	矢作 恒雄	慶応義塾大学 名誉教授
	山口 建	静岡がんセンター名誉総長兼理事
	山崎 達美	公益財団法人実中研 理事
山本 行俊	株式会社システム環境研究所 取締役相談役	
若林 敬二	静岡県立大学 特任教授	

### 参考3 ファルマバレープロジェクトのあゆみ

年月	主な出来事
平成13年2月	富士山麓先端医療産業集積構想（富士山麓ファルマバレー構想）策定
平成14年3月	第1次戦略計画策定（計画期間：平成14～18年度）
平成14年9月	静岡がんセンター開院
平成15年4月	ファルマバレーセンター開設 静岡県治験ネットワーク構築
平成16年4月	県立大学創薬探索センター設置
平成16年6月	東京工業大学、東京農工大学、早稲田大学と包括的事業連携協定を締結
平成17年11月	静岡がんセンター研究所（研究棟）開設
平成19年3月	第2次戦略計画書策定（計画期間：平成19～22年度）
平成20年4月	静岡がんセンターが多職種がん専門レジデント制度創設
平成20年11月	静岡がんセンターが認定看護師教育機関に認定（病院立で全国初）
平成22年12月	慶應義塾大学と包括的事業連携協定締結
平成23年3月	第3次戦略計画書策定（計画期間：平成23～32年度）
平成23年12月	ふじのくに先端医療総合特区に指定
平成26年	プロジェクト HOPE 開始
平成27年7月	第3次戦略計画（第1次改定版）公表
平成28年9月	ファルマバレーセンター（静岡県医療健康産業研究開発センター）全部開所
平成29年8月	（一財）ふじのくに医療城下町推進機構設立
平成30年4月	（一財）ふじのくに医療城下町推進機構事業開始 健康長寿・自立支援プロジェクト開始
平成30年9月	エスアールエル・静岡がんセンター共同検査機構（株）設立
平成31年4月	ふじのくに医療城下町推進機構公益法人化
令和元年12月	山梨県と医療健康産業政策に関する連携協定を締結
令和3年3月	総合特区計画変更承認（山梨県7市町を計画区域に追加）
令和3年3月	高齢者の自立を支援する理想の住環境のモデルルーム「3歩の住まい」を整備 第4次戦略計画策定（計画期間：令和3～7年度）
令和5年7月	静岡県医療田園都市構想策定

## 参考4 ファルマバレープロジェクト戦略計画の取組・成果 (平成14年度～令和7年度)

基本理念「世界一の健康長寿県の形成」

<「健康増進・疾病克服」と「県民の経済基盤の確立」を両輪とした施策の推進>

主な取組・成果

始動期	
<b>第1次戦略計画 (H14～18年度)</b>	
プロジェクトの基盤形成	<ul style="list-style-type: none"><li>・静岡がんセンター開院 (H14.9)</li><li>・ファルマバレーセンター開設 (H15.4)</li><li>・静岡県治験ネットワーク構築 (H15.4)</li><li>・創薬探索センター設置 (H16.4)</li><li>・連携協定締結 (東工大・農工大・早稲田大) (H16.6)</li><li>・静岡がんセンター研究所開設 (H17.11)</li></ul>
<b>第2次戦略計画 (H19～22年度)</b>	
医療健康産業の集積開始	<ul style="list-style-type: none"><li>・認定看護師教育機関認定 (H20.11)</li><li>・大手製薬企業との包括契約締結</li><li>・F-met 開始 (H21)</li><li>・慶應大と連携協定締結 (H22.12)</li><li>・地域企業の製品化が本格化</li></ul>
成長期	
<b>第3次戦略計画 (H23～R2年度)</b>	
医療城下町の形成	<ul style="list-style-type: none"><li>・ふじのくに先端医療総合特区指定 (H23.12)</li><li>・プロジェクト HOPE 開始 (H26)</li><li>・ファルマバレーセンター全部開所 (H28.9)</li><li>・ふじのくに医療城下町推進機構設立 (H29.8)</li><li>・共同検査機構設立 (H30.9)</li><li>・山梨県と連携協定締結 (R1.12)</li><li>・「自立のための3歩の住まい」モデルルーム整備 (R3.3)</li></ul>
<b>第4次戦略計画 (R3～7年度)</b>	
医療田園都市への取組開始	<ul style="list-style-type: none"><li>・プロジェクト関連企業において新型コロナ対応製品の開発・製造が進む</li><li>・山梨県7市町を追加した総合特区第3次計画開始 (R3.4)</li><li>・「自立のための3歩の住まい」を商標登録 (R4.3)</li><li>・「ふじのくに HOPE オンコパネル」を薬事申請 (R5.4)</li><li>・医療田園都市構想策定 (R5.7)</li></ul>

数値で見る成果

項目	H14 年度	R2 年度	R6 年度(実績)
医薬品・医療機器生産金額※	約 8,000 億円	1 兆 2,404 億円	1 兆 586 億円
製品化件数 (累計)	-	146 件	204 件
新規参入企業数 (累計)	-	47 社	54 社
認定看護師養成 (累計)	-	462 人	625 人
F-met 修了者 (累計)	-	91 人	123 人
企業立地件数	-	54 件	46 件

※暦年の数値



